

防災だより

その45

防災専門官 野田^{のだ} 秀敏^{ひでとし}

令和元年の自然災害

昨年の主な風水害

○九州北部の活発な秋雨前線活動

8月下旬、活発な秋雨前線の影響で福岡・佐賀・長崎県に大雨特別警報が発令されました。すでに災害が発生している可能性が高く、直ちに命を守るために最善を尽くす必要のある警戒レベル5に相当する状況でした。

佐賀県では、死者3人、全半壊約1200棟、床上床下浸水が約5千棟、道路被害約190箇所、河川被害280箇所になりました。

○台風15号・台風19号

台風15号が千葉県に上陸し、記録的暴風雨となり大きな爪痕を残しました。強い風の影響で住宅被害約4万棟、断水約14万戸、停電約93万戸の被害が発生しました。特に

送電線の鉄塔や多くの電柱の倒壊により、電力が全面復旧するまで18日間を要しました。

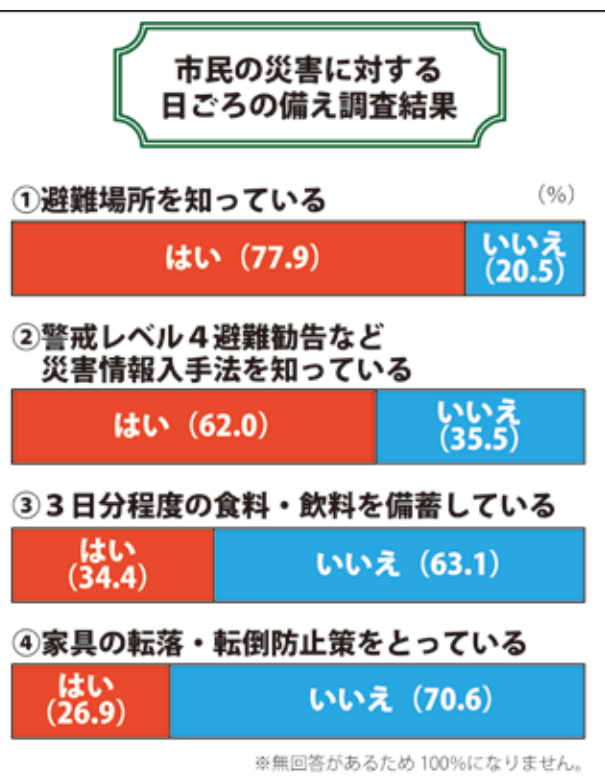
その復旧のさなか台風19号が上陸し、東日本を中心に猛威をふるいました。河川氾濫や堤防決壊、内水氾濫などで、死者・行方不明合わせ約100人が犠牲となりました。

日頃の災害準備

左の図をみてみましょう。これは本年度に実施した市民アンケートの結果です。

災害に対する備えができていないのは①②③④の順になりますが、4年前の調査の結果と比較すると、③が8・7ポイントも減少し、過去4年間の調査で最も低い数値になりました。一方、②は6・9ポイント、④は1・6ポイント、①1・2ポイントともに増加しましたが、③と④は、全国平均と比較しても低い水準にとどまっています。

日ごろの備えを行うことで被害が軽減されますので、自分と家族のためしっかりと準備をしておきましょう。



毎年起こる自然災害

近年、豪雨や台風は毎年各地に大きな被害をもたらしています。さらに、地球温暖化に伴う海水温上昇の影響により、豪雨の発生は年々増加傾向にあり、猛烈な台風の影響も心配され、災害発生の可能性が高くなっています。

また、昨年、大きな地震はありませんでしたが、年間震度1以上の全国地震発生回数(震度5以上)は、次のとおりです。

- 2016年 6587回(15回)
- 2017年 2025回(8回)
- 2018年 2179回(11回)

本市を縦断する警固断層の地震発生リスクは、4段階中最高位の「Sランク(高い)」に指定され、いつ大地震が発生してもおかしくない状況が継続中です。

地球環境の変化などにより自然災害は年々増加しており、被害を減らすには「日ごろの備え」しかありません。想定外を想定内にとどめ被害を最小限に抑えるため、市民の皆さんによる「自助」と、地域の要となる「自主防災組織」による「共助」で、災害時に備えましょう。

太宰府市安全・安心のまちづくり推進大会を開催します

問い合わせ 防災安全課 防犯安全係(☎内線 549)

日時 2月1日(土) 午前10時～午後1時(雨天決行)
場所 プラム・カルコア太宰府
2階市民ホールほか
※入場無料

災害を起こす気象についての講演や、災害への取り組みについて、安全運転サポート車の展示・体験などを行う予定です。

